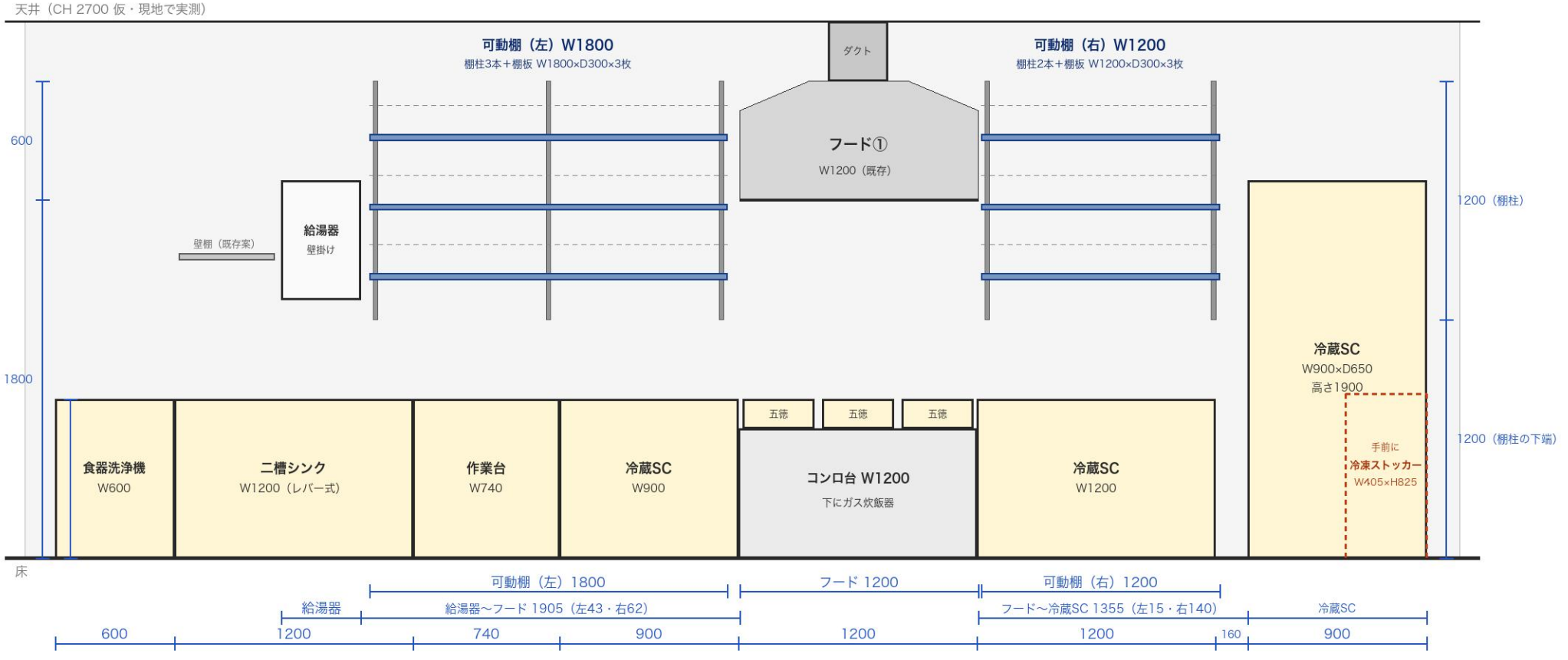
八重洲店 施工用図面 2/2　奥の壁 立面図（フード・可動棚）

天ぷらとワイン大塩　東京建物八重洲ビル B1　2026-11-18　単位 mm　寸法は前店図面から計測（製作前に現地で実測）

八重洲店 奥の壁 立面図（可動棚 左1800・右1200）

2026-11-18　単位 mm　厨房の中から奥の壁を見た図　高さは目安（現地で実測して確定）



- 可動棚（左）W1800：給湯器とフード①の間（1905）。1850だと左右27ずつで配管に当たりやすいので1800（左43・右62）。棚柱3本、棚板 W1800×D300×3枚
- 可動棚（右）W1200：フード①と右奥の冷蔵SC（高さ1900）の間。棚柱2本、棚板 W1200×D300×3枚
- 右奥の冷蔵SC W900×D650×H1900 は右の壁に寄せる（壁から約20）。隣の冷蔵SC W1200との間は160あく
- 右奥の冷蔵SCの手前（右の扉の前）に冷凍ストッカー 上開き60L W405×D575×H825（例：アビテラックス ACF-607）。左の扉は開く。通路600のうち575を使う
- コーナン等の棚柱（ガチャ柱）L1200を壁にビス留めし、棚受けで棚板を載せる。棚の高さは上下に自由
- 作業台の上に予定していた壁棚 W740 は、左の可動棚と同じ場所になるので可動棚に置き換え